

乾 亨教授 略歴と業績

I. 略 歴

- 1953年6月 福岡県に生まれる
- 1977年3月 京都大学工学部建築系学科卒業
- 1979年3月 京都大学大学院工学研科建築学専攻修士課程修了
- 1979年4月 株式会社京都建築事務所入社
- 1994年9月 熊本大学大学院自然科学研究科環境科学博士課程修了
- 1995年3月 株式会社京都建築事務所退社
- 1995年4月 立命館大学産業社会学部助教授
- 1998年4月 立命館大学産業社会学部教授
- 2019年3月 学校法人立命館立命館大学定年退職
- 2019年4月 立命館大学名誉教授

(主な学内役職歴)

- 1998年4月～1999年3月 産業社会学部学生主事
- 2000年4月～2001年3月 夜間主コース・社会人担当主事
- 2005年4月～2006年3月 産業社会学部副学部長
- 2008年7月～2011年7月 全学評議委員会委員
- 2009年9月～2012年3月 サービスラーニング副センター長

II. 専門分野

- 専門分野 地域研究, 都市計画・建築計画
- 担当科目 居住環境デザイン論, 参加のデザイン論, 科学・技術と社会
- 学位 学術博士(熊本大学, 1994年9月)
- 研究課題 「住民参加の計画」・コミュニティガバナンス
- 所属学会 日本建築学会, コミュニティ政策学会, 日本生活学会

III. 主な研究業績

著 書

1. (共著)『これからの集合住宅づくり』(延藤安弘・熊本大学延藤研究室著, 晶文社, 1995年) 85-101, 163-192頁
2. (共著)『対話による建築・まち育てー参加と意味のデザイン』(延藤安弘他著, 学芸出版社, 2003年) 58-82頁

3. (共編著)『マンションをふるさとしたユーコート物語—これからの集合住宅育て』(乾亨・延藤安弘編著, 昭和堂, 2012年) 全306頁

論 文

1. (共著)「居住者要求に対応した住宅平面の総合評価—H. フライによる住宅評価法」(延藤安弘, 『住宅』26巻10号, 1977年) 62-69頁
2. (共著)「居住者要求に対応した住宅平面の機能性評価 (1)」(延藤安弘・小川正光, 『建築技術』79年12月号, 建設省建築研究所監修, 1979年) 171-183頁
3. (共著)「居住者要求に対応した住宅平面の機能性評価 (2)」(延藤安弘・小川正光, 『建築技術』80年1月号, 建設省建築研究所監修, 1980年) 153-167頁
4. (共著)「共感と合意による集合住宅—原山台コープ・コープ方式による都心型集合住宅—都住創うつほ住宅」(梶山秀一郎・石原一彦, 『建築知識』, 1982年) 66-130頁
5. (共著)「プロセスからものへ—ユーコートの歩みをたどる」(梶山秀一郎, 『建築文化』No.473 Vol.41, 彰国社, 1986年) 23-50頁
6. (単著)「コーポラティブ住宅ユーコート」(『建築技術』1991年11月号別冊『これからの集合住宅計画手法のすべて』, 建設省建築研究所監修, 1991年) 126-129頁
7. (共著)「共同建替の島々がまちなかに生成・連鎖する〈状況のデザイン〉」(延藤安弘, 『at』1992年12月号, デルファイ研究所, 1992年) 31-39頁
8. (共著)「カルチュ・ダムール マインド・ネットワークによる木質住宅の共同建替」(延藤安弘, 『at』1993年4月号, デルファイ研究所, 1993年) 59-66頁
9. (共著)「住宅市街地における共同建替の課題と展望—上尾と門真の事例の示すこと」(延藤安弘, 『都市問題研究』45巻7号, 大阪市役所都市問題研究会編, 1993年) 133-154頁
10. (共著)「価値づくりの計画プロセスにおける住み手の計画側への役割の浸透—ユーコートの計画プロセスにおける住み手とコーディネーターの相互浸透性1」(延藤安弘・森永良丙, 『日本建築学会計画系論文報告集』446号, 日本建築学会, 1993年) 53-63頁
11. (共著)「町家と生活と文化の〈あいだ〉をデザインする 住み続けられる町づくりの仕掛け」(延藤安弘, 『建築文化』No.568 Vol.49, 彰国社, 1994年) 140-143頁
12. (単著)「大家と店子という対立・隔絶の関係を強制・融合の关系到シフトさせた賃貸型コーポラティブ住宅〈あるじゅ〉」(延藤安弘, 『at』1994年4月号, デルファイ研究所, 1994年) 49-57頁
13. (単著)「集住環境計画における『参加』に関する研究—相互浸透的プロセスによる『価値づくり』の計画」学位請求論文(1994年・熊本大学) 全186頁
14. (共著)「既成住宅市街地における共同建替の課題と展望—仕組みのデザインから状況のデザインへ」(延藤安弘, 『都市住宅学』6号, 都市住宅学会, 1994年) 84-95頁
15. (共著)「価値づくりの計画プロセスにおける住み手の計画側への役割の浸透—ユーコートの計画プロセスにおける住み手とコーディネーターの相互浸透性2」(延藤安弘・森永良丙, 『日本建築学会計画系論文報告集』459号, 日本建築学会, 1994年) 69-77頁
16. (単著)「建築のデザインから参加のデザインへ—新地団地Aと北方みずき団地にみる集合住宅計画の2つの流れ」(『住宅会議』第36号, 日本住宅会議, 1996年) 6-10頁

17. (共著)「自主防災組織の構成と活動実態に関する研究報告書」(石見利勝, 立命館大学震災プロジェクト『阪神・淡路大震災総合研究論文集』, 1996年)
18. (単著)「神戸市真野地区復興まちづくり」(『CONTEXT』 vol.3, シティウェア研究所, 1996年) 21-37頁
19. (共著)「しなやかな市民参加型復興まちづくり」(笹谷康之・高田研, 『地域開発』 381号, 1996年) 42頁
20. (共著)「地域住民と行政のパートナーシップによる(防災)まちづくりに関する研究報告書—清水学区における実践活動を通して—」(乾ゼミ清水班, 京都市委託研究報告書, 1998年) 全63頁
21. (単著)「『参加』における『合意, 決定』とはなにか—真野まちづくりから学ぶ『状況のデザイン』の力—」(立命館大学震災プロジェクト『阪神・淡路大震災総合研究論文集』, 1998年) 243-249頁
22. (単著)「蘇る下町コミュニティ—東尻池コート」(『造景』 No.15, 建築資料研究所, 1998年) 83-106頁
23. (共著)「網目状の人のつながりをつくる—神戸市長田区真野地区にみる〈安心〉まちづくり—」(立命館大学震災復興研究プロジェクト編『震災復興の政策科学』, 有斐閣, 2002年) 113-136頁
24. (共著)「阪神・淡路大震災からの復興—長屋の共同再建『東尻池コート』の事業記録」(宮西悠司・柴山直子, 『調査研究期報』 No.115, 独立行政法人都市再生機構, 1998年) 55-83頁
25. (共著)「高齢者の『安心・自立居住』を『まち』で支える『地域力』の実践的研究」(延藤安弘・宮西悠司・森永良丙・森詳子・大森靖子, 『住宅総合研究財団研究年報』 No.26, 財団法人住宅総合研究財団, 2000年) 311-322頁
26. (共著)「東尻池コート—東尻池町7丁目立江地区共同建替計画」(柴山直子, 『作品選集2000』, 日本建築学会, 2000年) 116-117頁
27. (単著)「都市計画から参加のまちづくりへ」(飯田哲也・中川順子・浜岡政好編著, 『新人間性の危機と再生』, 法律文化社, 2001年) 120-144頁
28. (単著)「高齢者の『安心・自立居住』を可能にするコレクティブタウンの成立要件に関する実践的研究—真野地区における高齢者の生活実態調査」(『立命館産業社会論集』 38巻 3号, 2002年) 31-51頁
29. (単著)「中間的公共性としての地域コミュニティ」(『対話による建築・まち育て—参加と意味のデザイン』, 日本建築学会意味のデザイン小委員会, 学芸出版, 2003年) 58-82頁
30. (単著)「まちづくり読本: 機嫌よう暮らせるまちをつくろうやないか—京都からの発信」(『21世紀の日本を見つめる』, 立命館大学現代社会研究会, 2004年) 175-186頁
31. (単著)「『延藤安弘的思考と実践』の源流をたどる」(延藤安弘編著, 『人と縁をはぐくむまち育て』, 萌文社, 2005年) 207-212頁
32. (共著)「真野っこが語る真野の歴史」(大森靖子, 『日本最長・真野まちづくり』, 真野まちづくり推進会, 2005年) 1-38頁
33. (共著)「団地再生のための効果的手法の調査(その2)—経年変化したコーポラティブ住宅の評価/ユーコート20年をふりかえって—」(延藤安弘他, 独立行政法人都市再生機構西日本支社・財団法人住宅管理協会関西支部・NPO 法人まちの緑側育くみ隊, 2006年)
34. (単著)「20年経ったいま, 『ユーコート』という場を読み直す」(『第15回都市環境デザインフォーラム・関西「デザインの力」』, 2006年) 27-33頁
35. (単著)「地域まちづくりの新しい担い手—求められる『地縁も志縁も』型組織」(『都市研究京都』 20

- 号, 京都市総合企画局, 2007年) 57-70頁
36. (単著)「真野暴追運動見聞記」(『スクラム組んで～暴力団組事務所追放まで297日間の記録』, 暴力団組事務所追放等協議会, 2007年) 88-92頁
 37. (単著)「『ふつうのまち』のまちづくりのススメー京都市梅津学区」(『季刊まちづくり』14号, 学芸出版社, 2007年) 93-99頁
 38. (共著)「『生き活きた人生』を創出する高齢者のための居場所づくり」(延藤安弘・藤田忍, 『住宅総合研究財団研究年報』No.33, 財団法人住宅総合研究財団, 2007年) 289-300頁
 39. (単著)「子供の発達と住居47: 子供たちはユーコートからなにをうけとったか」(『住宅会議』第70号, 日本住宅会議, 2007年) 29-31頁
 40. (単著)「住民の力で暴力団を追い出したまち〈真野〉」(『季刊まちづくり』17号, 学芸出版社, 2007年) 112-118頁
 41. (単著)「京都市の地域組織とコミュニティ政策」(中川幾郎編著『コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践』, 学芸出版社, 2011年) 125-139頁
 42. (単著)「コミュニティの〈応災力〉に期待する」(『都市とガバナンス』16号, 公益財団法人日本都市センター, 2011年) 125-139頁
 43. (単著)「『生き延びるための地域コミュニティ』を育む行政の立位置」(『第74回全国都市問題会議・都市の連携と新しい公共』, 全国市長会, 2012年) 140-146頁
 44. (単著)「京都の住民自治組織とコミュニティ政策のいま」(『市政研究2014年冬号』No.182, 大阪市政調査会, 2014年) 6-19頁
 45. (単著)「地域・住民のための『コミュニティ政策』をめざして」(『地域コミュニティと行政の新しい関係づくり』, 日本都市センター, 2014年) 11-32頁
 46. (共著)「立命館大学乾ゼミ20年の軌跡」(乾ゼミ真野班, 『つ・な・ご・う～震災の教訓を真野から発信する』阪神淡路大震災20周年事業実行委員会(真野地区まちづくり推進会), 2015年) 103-123頁
 47. (共著)「全世界アンケートの取り組み」(深川光耀, 『つ・な・ご・う～震災の教訓を真野から発信する』阪神淡路大震災20周年事業実行委員会(真野地区まちづくり推進会), 2015年) 69-94頁
 48. (共著)「地域組織の活性化と新しい地域リーダー創出のための実践的研究～『真野まちづくり』の継承と新展開を目指す取り組みを通して」(深川光耀他, 『住総研研究論文集No.41, 2014年版』, 一般財団法人住総研, 2015年) 109-120頁
 49. (単著)「地域・住民側から見た『自治的協議会』の意味と活かし方」(『都市自治体とコミュニティの協働による地域運営をめざして～協議会型住民自治組織による地域づくり』, 都市自治体とコミュニティの協働による地域運営に関する研究会編, 公益財団法人日本都市センター, 2015年) 53-77頁
 50. (単著)「地域住民組織のあしたを考える(1)～地域住民組織は必要か」(『まちむら』130号, 公益財団法人あしたの日本を創る協会, 2015年) 33-35頁
 51. (単著)「地域住民組織のあしたを考える(2)～求められる地域住民組織のあたらしい『かたち』」(『まちむら』131号, 公益財団法人あしたの日本を創る協会, 2015年) 33-35頁
 52. (単著)「地域住民組織のあしたを考える(3)～地域コミュニティを束ねる地域組織のなかみ(ひと)をつくる」(『まちむら』132号, 公益財団法人あしたの日本を創る協会) 33-36頁
 53. (単著)「地域住民組織のあしたを考える(4)～『地域と地域住民組織のあした』を創るために」(『ま

ちむら』133号, 公益財団法人あしたの日本を創る協会, 2016年) 33-37頁

54. (単著)「地域住民組織の明日を考える(追補版)～地域コミュニティにとっての協議会型住民自治組織の意味」(『まちむら』134号, 公益財団法人あしたの日本を創る協会, 2016年) 36-40頁
55. (単著)「地域住民組織は必要か・未来はあるか」(『都市問題』108巻10号, 公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所, 2017年) 49-66頁
56. (単著)「地方創生のいま, 地域を元気に!」(通信『耀2019年3月』, (社団法人)通信研究会, 2019年) 10-14頁

その他

1. (共著)「わんぱく設計家による『遊び場』づくりワークショップ」(宮本日佐美, 『住宅会議』第31号, 日本住宅会議, 1994年) 21-23頁
2. (建築作品)「東尻池コートー真野・東尻池7丁目立江地区共同建替計画」(共同設計/コーディネーター, 『日本建築学会作品選集2000』, 日本建築学会, 2000年) 116-117頁
3. (翻訳監修)「台湾社区総体营造の軌跡」(台湾行政院文化建設委員会/1999年5月, 江鴻儒 訳, 台湾まちづくり研究会 編, 人と防災未来センター・こうべまちづくりセンター 発行, 2004年)
4. (共著)『市民参加こんなえーやん宣言!? 京都市市民参加推進フォーラムからの提言』(京都市市民参加推進フォーラム共同提言, 2006年)
5. (共著)「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(1)」(延藤安弘・小杉学・森麻里子, 『2006年日本建築学会大会学術講演梗概集』, 日本建築学会, 2006年) 273-274頁
6. (共著)「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(2)」(延藤安弘・小杉学・森麻里子, 『2006年日本建築学会大会学術講演梗概集』, 日本建築学会, 2006年) 275-276頁
7. (共著)「コーポラティブ住宅ユーコート20年の軌跡研究の目的と方向—ユーコート20年にみる集住文化形成の軌跡(3)」(延藤安弘・小杉学・森麻里子, 『2006年日本建築学会大会学術講演梗概集』, 日本建築学会, 2006年) 276-277頁
8. (共著)「住生活の経年変化と住戸改造の特徴 ユーコート20年にみる人間—空間関係変容の軌跡(1)」(森永良丙・延藤安弘・福田由美子・安井雄治, 『2006年日本建築学会大会学術講演梗概集』, 日本建築学会, 2006年) 111-112頁
9. (共著)「住生活の経年変化と住戸改造の特徴 ユーコート20年にみる人間—空間関係変容の軌跡(2)」(森永良丙・延藤安弘・福田由美子・安井雄治, 『2006年日本建築学会大会学術講演梗概集』, 日本建築学会, 2006年) 113-114頁
10. (共著)『京都市地域コミュニティ活性化に関する懇話会報告書』(京都市地域コミュニティ活性化検討委員会, 2010年)
11. (単著)「コミュニティ政策学会第14回大会・分科会報告『地域コミュニティのマネジメント』」(『コミュニティ政策14』, 東信堂, 2016年) 141-142頁

IV. 社会における活動

1996年4月～2011年3月	財団法人京都市景観・まちづくりセンター評議員
1998年4月～2001年3月	京都市基本構想等審議会委員
1998年4月～2001年3月	京都市右京区基本計画策定懇談会座長
1998年4月～2001年3月	千本楽只まちづくり委員会委員
1998年4月～2002年3月	千本楽只新1棟（公営住宅）建替ワークショップ コーディネーター
2000年10月～	梅津学区まちづくり委員会アドバイザー
2000年4月～2001年3月	長岡京市まちづくり支援センター構想会議 アドバイザー
2001年4月～2002年3月	大津市市民参加推進研究会座長
2001年4月～2013年3月	NPO 法人「長岡京市民活動サポートセンター」運営委員理事
2001年4月～2010年3月	京都市すまい・まちづくり活動支援制度審査会審査員
2001年4月～2003年7月	右京区まちづくり円卓会議座長
2002年4月～2003年7月	京都市行政区制度検討調査会委会
2002年4月～2003年8月	太秦東部地区まちなみ形成等検討委員会委員
2003年3月～2003年8月	右京区新総合庁舎計画づくりワークショップ コーディネーター
2004年3月～	大学コンソーシアム京都・大学地域連携創造・支援事業審査委員（13年座長）
2004年9月～2007年3月	京都市市民参加フォーラム副座長
2007年4月～2009年3月	京都市市民参加フォーラム座長
2008年4月～2010年3月	京都市地域コミュニティ活性化推進懇話会座長
2010年4月～2011年3月	京都市地域コミュニティ活性化検討委員会座長
2010年4月～2011年3月	京都市基本計画検討委員会委員（市民生活部会長）
2011年4月～2012年3月	大津市結プラン座長
2011年4月～2012年3月	京都府命の里委員
2012年4月～2015年3月	公益法人京都市景観・まちづくりセンター理事
2013年4月～2014年3月	公益財団法人日本都市センター コミュニティ活性化に関する研究会委員
2014年3月～	豊中市市民公益活動推進委員会委員
2014年3月～2015年3月	都市自治体とコミュニティの協働による地域運営に関する研究会：都市センター
2015年4月～	公益法人京都市景観・まちづくりセンター評議員
2016年4月～2017年3月	向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会委員
2017年4月～	向島ビジョン推進会議（向島NT地域団体+京都市）顧問

以上